

帝人株式会社 ■ コーポレートコミュニケーション部

- 東京本社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号 霞が関コモンゲート西館 TEL.03-3506-4055 FAX.03-3506-4150
- 大阪本社 〒530-8605 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワーウエスト TEL.06-6233-3413 FAX.06-6233-5040
- URL <https://www.teijin.co.jp>

2020年 7月21日

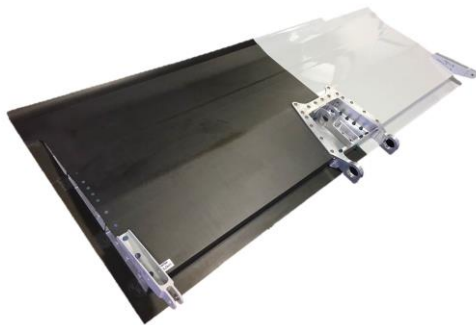
航空機向けに炭素繊維中間材料の展開を拡大 エアバス社の主力旅客機「A320neo」に採用

帝人株式会社

帝人株式会社（本社：大阪市北区、社長：鈴木 純）の炭素繊維「テナックス」を使用した中間材料が、このたび、Airbus（本社：フランス トゥールーズ市、最高経営責任者：ギヨム・フォーリ、以下「エアバス社」）の主力旅客機である「A320neo」の主翼スポイラーの部材として採用されました。

このたび採用された炭素繊維中間材料は、「テナックス Dry Reinforcements Non-Crimp Fabrics」（ノンクリンプクロス、以下「テナックスDRNF」）および「テナックス Dry Reinforcements Braided Fibers」（組紐、以下「テナックスDRBF」）です。

また、これらの中間材料が使用されることになった「A320neo」向けの主翼スポイラーは、世界有数の航空機構造部材メーカーである Spirit AeroSystems, Inc.（本社：米国 カンザス州ウィチタ、社長：トム・ジェントル、以下「スピリット社」）のプレストウィック拠点（英国 スコットランド サウス・エアシャー州）で生産されます。



「A320neo」のスポイラー



エアバス社「A320neo」

「テナックスDRNF」はNCF(*1)の一種で、表面が滑らかであることから、母材となる樹脂がシート上で均一に浸透しやすく、従来の航空機向け高性能熱硬化プリプレグと同等の物性を有するなどの特長があります。一方、「テナックスDRBF」は、炭素繊維原糸を三つ編み構造の組紐状にしたもので、その形状から高い伸縮性があり、シート状中間材料から成る複合材料製の航空機部品に生じる空間を埋めるフィラー材の役割を果たします。

また、「テナックスDRNF」と「テナックスDRBF」との組み合わせによる炭素繊維複合材料（CFRP）のスポイラーは、スピリット社においてRTM(*2)により成形されるため、従来のオートクレーブ成形に比べて生産性やコスト効率などが優れており、これらの点が高く評価されて、このたびの採用に至りました。

(*1) NCF : 炭素繊維の束を一方方向に並べてシート状にしたものを、さまざまな角度に積層し、バラバラに分かれないようにポリエステルやナイロンなどの糸で縫い付けた織物。

(*2) RTM : Resin Transfer Molding の略。金型の中に炭素繊維シートを配置した後、樹脂を注入し、硬化させる成形方法。

炭素繊維「テナックス」は、エアバス社の「A380」の一次構造材や各機種の二次構造材に採用されており、近年は、中間材料が「A380」や「A350XWB」の一次構造材用に採用されるなど、帝人グループは、30年以上にわたって炭素繊維製品の安定した供給実績と品質優位性を誇り、エアバス社のトップクラスのサプライヤーとしての地位を確保しています。

当社は、2020年度からの新・中期経営計画において、航空機向け炭素繊維中間材料の展開を「将来の収益源育成（Strategic Focus）」と位置づけており、高強度高弾性率炭素繊維や熱可塑性樹脂を使用した一方方向性プリプレグテープをはじめ、炭素繊維強化熱可塑性樹脂積層板、熱硬化性プリプレグなどで、グローバル市場の川上から川下に至るまで、幅広く用途開発を推進していきます。そして、航空機向け炭素繊維製品のマーケットリーダーとして、ソリューション提案力を一層強化し、2030年近傍までに航空機用途で年間900百万米ドル超の売上を目指します。

以 上

【 当件に関するお問合せ先 】

帝人株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL: (03) 3506-4055